

## 例 言

1. 本書は日本学術振興会科学研究費（学術研究助成金 基盤研究C）の交付を受けて実施した研究の成果報告書である。

研究課題名：「飛鳥時代・奈良時代の土器様式からみた日本古代の食具様式および食事法の復元的研究」  
（課題番号：18K01082）

研究代表者： 森川 実（独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 都城発掘調査部）

研究経費： 平成30年度 1,300,000円（直接経費） 390,000円（間接経費）  
令和元年度 1,050,000円（同上） 315,000円（同上）  
令和2年度 1,050,000円（同上） 315,000円（同上）

2. 遺物や再現料理の写真撮影は飯田ゆりあがおこなった。
3. 表紙・裏表紙と本文扉・図版扉のデザインは、長岡綾子（長岡デザイン）による。
4. 奈良文化財研究所のこれまでの刊行物は、次のように略した。  
『奈良文化財研究所紀要』2009 → 『紀要2009』  
『平城宮発掘調査報告』Ⅶ → 『平城報告Ⅶ』  
『平城京左京二条二坊・二条三坊発掘調査報告』 → 『長屋王報告』  
『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』9 → 『飛鳥藤原概報9』
5. 8世紀の土器の時期区分は、既往の奈文研学報等にならない平城宮土器Ⅰ～Ⅴと表す。また、土器の器種名は原報告のそれをできるかぎり踏襲したが、土師器皿AⅡにかんしては近年の呼び方も考慮し、2つの器種名（皿AⅡ・杯CⅠ）を併記する場合がある。
6. 本書でとりあげる平城宮・京出土土器の年代は、木簡の年紀を参考にしつつ、原報告の年代観にしたがった。
7. 本研究を遂行するにあたっては、下記の方々や機関の協力を得た（五十音順・敬称略）。大澤正吾・小田裕樹・尾野善裕・垣中健志・加藤真二・金田明大・小沼美結・栄原永遠男・（公財）寒風陶芸会館・神野 恵・杉本一樹・奈良市埋蔵文化財調査センター・馬場 基・三浦公子・三浦裕二・三舟隆之。また、本書附録に載せた木葉標本の収集には飯田ゆりあ・西田紀子の協力を得ている。